

The
Kyushu
University
Museum

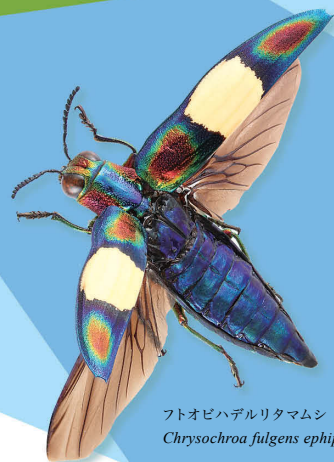
News

No.24 九州大学総合研究博物館ニュース

理学部の移転が始まりました。

7月から理学部の移転が始まりました。夏休みの間に箱崎を退去し、10月には伊都で開講です。理学部には、膨大な標本が存在しています。博物館では、長年これらのデータベース化を精力的に行ってきました。そして、この移転中に過去の教育・研究の裏付けとなる色々な機器類や資料についても、出来る限りの収集を行っています。

総合研究博物館第7代館長 吉田茂二郎



フトオビハデルリタマムシ
Chrysochroa fulgens ephippigera



アラメミドリフトタマムシ
Sternocera pulchra

I

特別展示

きらめく甲虫

期間：2015年7月6日(月)～9月25日(金)

場所：箱崎キャンパス

旧工学部本館3階常設展示室

担当：丸山宗利 開示研究系・助教



ブロンズノコギリカミキリ
Pyrodes nitidus



ニジモンコガネハムシ
Sagra buqueti

自然のなかにはわれわれの想像を超える、驚くべき色彩や姿かたちが存在します。

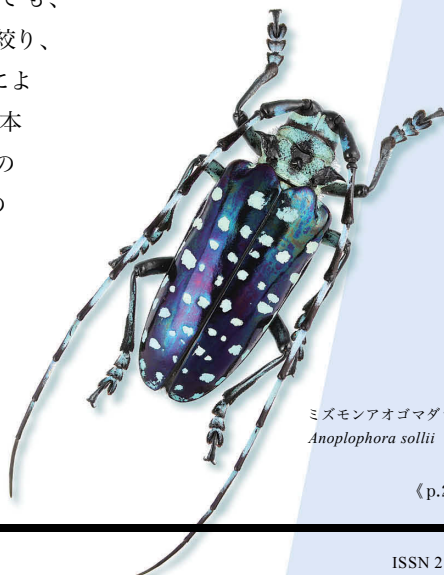
あるいはヒトの表現の元はすべて自然のなかに織り込み済みであると言ってよいかもしれません。

今回の展示では、そのような自然の造形のなかでも、

とくに金属光沢をもつ甲虫に焦点を絞り、特殊な「深度合成法」という撮影法によって撮影された標本写真と実物の標本を展示しました。まるで金属そのもののようなプラチナコガネ、いろとりどりのコガネハムシ、南部鉄器のような彫刻をもつオサムシなどがとくに人気で、約3か月の会期中、おかげさまで大変なご好評をいただき、これまでに当館常設展示室で行われた展示の中で、ずば抜けて多くの皆様にご観覧いただくことができました。



キンギンコガネ
Chrycina chrysargirea



ミズモンアオゴマダラカミキリ
Anoplophora soltii

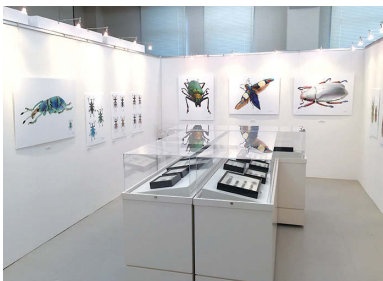
〈p.2へ続く〉



催事・展示クローズアップ

《p.1から続く》

実は、7月に幻冬舎より同名の「きらめく甲虫」(丸山宗利著)という本が出版されました。本書は筆者が主に収集した標本(一部、当館収蔵の標本)の形を整え、それを自ら撮影し、出版社が編集したものです。撮影にあたっては、太陽光のもとで見えるような自然な色合いと、甲虫の魅力である立体感を出すのに苦労しました。これらの写真を印刷会社の方が色調整し、印刷に適した



会場風景

形に修正をしていただきました。本展示は書籍の出版よりわずかにさきがけて開始されました。ちょうどこのころ、博物館学芸員実習で杉本高臣君という学生が東京農業大学から来ており、その課題の一つとして彼主体で作業を進めることになりました。そして九州大学農学部^{かめかん}の学部生である胎中悠丞君と辻尚道君、ボランティア

で箱崎在住の安武妙恵さんも作業に加わりました。どのような写真を使うか、どのように配置するか、そしてどのように説明を加えるかなど、みなさんと一緒に考えてできたのが、本展示です。



「きらめく甲虫」
丸山 宗利 助教著
2015年7月/幻冬舎

II 終わりと始まり

—第一分館倉庫ラストラン—

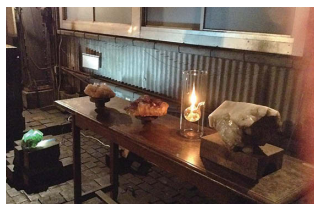
期間：2015年3月13日(金)～15日(日)
場所：博物館第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)
担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授



「終わりと始まり」フライヤー(作:大鶴憲吾)

当館の発想や可能性を広げ、たくさんの人々をつなげてきた第一分館倉庫の5月閉館を記念して、当館収蔵標本・資料とともに、服や音楽などを組み合わせたインスタレーション展示を実施しました。主催はカフェ SPITALとGROU。タイトルは、ポーランドの詩人 Szyborska の作品から引かれています。

空間演出を担当した大鶴憲吾



鉱物が幻想的に浮かびあがる

氏(GROU)とは、これまでもコラボレーション展示を実施してきました。従来は当館の資料を際立たせるという目標のため、ご自身の制作作品(服飾)の展示をあえて用いることはありませんでしたが、今回は、第一分館での共同展示も最後ということで(これまでの御礼も込めて)、服飾品の展示を“解禁”していただきました。

2014年の木製什器展「知春草生」でも、植物標本や考古資料が用いられましたが、今回は中西准教授の協力のもと、新たに鉱石標本も加わりました。また、考古資料は、今回点数が増えたことに加え、なんと、ひとつかかえ以上もある壺棺が3つも!岩永教授らによるサポートで、実現しました。

残念ながらこの空間での催しはこれが最後になりましたが、私は、このようなわくわくできる空間に、いつかまた出会えることを期待しています。



考古学資料も数多く出展

III 第一分館閉館式

期間：2015年5月9日(土)
場所：博物館第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)
担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

今年取り壊し予定の第一分館の閉館式が、工学系の先生方やこれまで催事にご参加下さった一般の皆様ご同席のもと、しめやかにとり行われました。吉田館長の式辞ののち、岩永副館長が第一分館設置の経緯やそこでの博物館活動について説明し、その後、工学部名誉教授の尾崎龍夫先生から、御在職当時の様子や機械工学についての貴重なお話をいただきました。閉会後にバックヤードツアーと交流会を実施し、閉館を惜しみました。

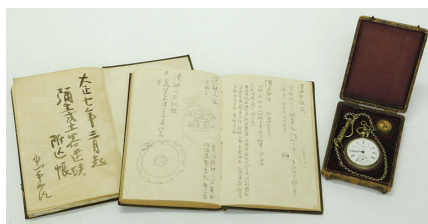


交流会の灯りがもれる第一分館

Close-up Event & Exhibition

IV 中山平次郎先生 関係考古学資料 特別展示

期間：2015年4月20日(月)～6月26日(金)
場所：旧工学部本館3階総合研究博物館常設展示室
担当：岩永省三・米元史織



自筆のフィールドノートと懐中時計

中山平次郎先生は、福岡医科大学（現・九州大学医学部）の初代病理学教室教授です。ご専門の日本住血吸虫の人体内での發育史研究など大きな業績を遺した一方、大正から昭和初期にかけて九州の考古学研究をリードしたことで知られています。今回の展示では、故岡部養逸氏旧蔵の中山平次郎先生関係考古学資料に加えて、九州大学教養部檜垣元吉名誉教授（1906-1988）より寄贈された資料も合わせて展示しました。中山先生が論文中に掲載したことが明らかな遺物や、自筆のフィールドノートや論文の自筆原稿など学術的価値が非常に高いものばかりです。また、これら資料を用いた最新の研究成果についての紹介も行いました。



中山平次郎先生関係考古学資料展示の様子

V 奴国の南展

—筑紫キャンパスの埋蔵文化財—

期間：2015年5月11日(月)～9月4日(金)
場所：伊都キャンパス椎木講堂1階ギャラリー
担当：岩永省三 総合研究博物館・副館長

筑紫キャンパスは、第二次大戦後は米軍キャンプとして利用された土地でしたが、弥生時代に遡れば、中国の史書『漢書』『魏志倭人伝』に「奴国」と記された地域の一角であり、遺跡の密集地帯です。キャンパスの建設に伴い、1978～98年に実施された発掘調査によって、弥生時代から古代に及ぶ学術的価値が高い遺構・遺物が出土し、多くの成果を得ました。主要遺物には、弥生時代中期の祭祀土器群・巴形銅器・銅戈鋳型、古墳時代の石釧・須恵器製作用具、古代の墨書土器・硯・瓦・木簡などがあります。



「奴国の南」展の展示状況

それらを網羅的に展示し遺跡群の歴史的位置づけと重要性について明らかにしました。また、アジア埋蔵文化財研究センターによる最新の埋蔵文化財調査研究の成果も紹介しました。

VI 二重染色法による透明骨格標本ミニ展示

—常設展示に海の小さな生き物の美しい標本が加わりました—

展示開始：2015年7月25日(土)
場所：旧工学部本館3階総合研究博物館常設展示室
担当：丸山宗利・福原美恵子

福岡市の能古島と志賀島を中心に採集された小型の水産動物を透明骨格標本とし、新たに常設展示に加えました。透明骨格標本は、小型の魚類など、骨のみを取り出し骨格を組み立てるのが難しいものに有効な技術です。二重染色法により赤紫色と

青色とに染めわけられた骨格が、透明な肉質の中に生きているときそのままに立体



コモンフグ 能古島 体長19mm



透明骨格標本展示風景

的に観察できます。小さな体を支える骨格の精巧さを、目を凝らして、堪能下さい。本展示は社会連携事業の成果の一部であり、また、農学研究院望岡典隆准教授、生物資源環境科学府穂山祐喜氏の協力を得ています。

New Assistant Professor

新助教着任

新任教員による着任のご挨拶と研究紹介

人骨から活動を読み解く

米元 史織 開示研究系・助教 専門:人類学



米元 史織 助教

私は、2015年3月に九州大学比較社会文化学府を単位修得退学後、4月に助教として着任しました。私の専門は人類学で、形質人類学と骨考古学と呼ばれる分野の境に位置づけられる研究をしています。

主に対象としているのは人骨の四肢の筋や靭帯の付着部です。筋や靭帯は付着する骨の位置が概ね決まっていますので、骨を観察するとどこに何筋が付いていたかがわかります。また、代謝によって骨細胞が入れかわることで骨の形は生涯変化しています。その変化の仕方は、

簡単に言うと負荷のより強いところの構造を強化するというものです。これを応用し、筋・靭帯付着部も、その表面形状を複雑化させてかかる負荷に対応すると考えられています。つまり、四肢骨の付着部の複雑さの程度を評価していくことでどのような筋・靭帯をよく使用している、あるいはしていない、ということの人骨から読み取ることができるのです。この方法を用いて過去の人々の生業様式や生活様式を明らかにするという研究を行っています。

これまで日本列島から出土した縄文時代・弥生時代・中世・近世の人骨を対象として研究を行ってきました。身体活動の違いのあらわれ方の時空間的な差異

を検討し、ニッチの違いによって生じる活動差、男女の分業や年齢による活動の区分のあり方が地域や時代によって大きく異なること、さらに階層社会である江戸時代の武士層と町人層といった階層間の活動差が最も顕著に析出されることを指摘しました。

今後は、日本列島において階層化と社会的分業が進展したとされている古墳時代以降を対象とし、首長制体制の確立と身体活動の差異の顕著化の関連について明らかにしていきたいと考えています。また、博物館業務では古人骨資料・骨格標本、及びこれらを用いた研究成果の展示を実践していきたいと考えております。



三角筋が付着する三角筋粗面の発達図



人骨検出作業中(群馬県金井東裏)



弥生の紡織の仕方を学ぶ為裂き織体験(岩永先生の奥様と)

COLUMN

博物館こぼれ話

第一分館機械工場がミュージックビデオに登場

文章担当: 三島 美佐子 開示研究系・准教授

去る2015年3月、歴史的な工作機械が状態展示されている「第一分館倉庫」で、地元九州の「オーディション

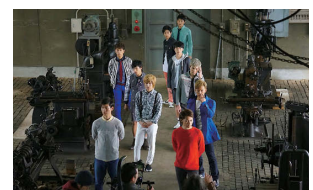
番組から生まれた10人組イケメン・エンタテインメント集団「こと」10神アクター」のミュージックビデオ撮影

が行われました。

この「Dear Friends〜未来へ〜」というミュージックビデオは、10神アクターのウェブサイトやYouTube、深夜0時59分から毎週火曜日に放送されているFBSの番組などでご覧いただけます。機械工場は、曲の途中で登場しますよ!

閉館となった第一分館の姿をこのような形で映像に残すことが

できたことは、当館としては大変うれしいことでした。



緊張感溢れる撮影現場

Series : Museum Jobs from A to Z

シリーズ・大学博物館のお仕事紹介

九州大学の近代建築

建物装飾の調査・記録・保護

松本 隆史 開示研究系・助教 専門：メディアデザイン



旧工学部本館の雨樋の先に、ライオンが居ます。

総合研究博物館が入居している旧工学部本館(1930年建築)に、ライオンの装飾が施されているのをご存知でしょうか? 外壁に取り付けられた雨樋を見上げると、その一番上部にライオンが取り付けられており、全部で50個確認できました。知る人ぞ知る箱崎キャンパスの豆知識です。

博物館では、大正から昭和の初めに建てられた九州大学の近代建築について、建物装飾に着目をして調査をしています。建物装飾は、この時代の建築の一つの特徴ですが、移転や建替によって建物が失われたりすると、意外とそのディテールがわからなくなるものです。

例えば、先述のライオンは、大学文書館所蔵の旧工学部本館建築時の書類に



ライオンはこんな顔をしています。

「あんこう鯨鮫*テラカッター獅子頭又ハ彫刻出来品」という記載が見られますが、図面やスケッチは見つかっていません。遠景の古い写真を見ても、ライオンの表情を判別するのは困難です。オリジナルであるか、改修時に取り替えられた可能性があるのかについても検討の余地があります。なお、旧工学部本館を設計した九州帝国大学建築課長倉田謙は、外観の似た旧門司市役所(1930年建築)の設計も行っており、そちらにもライオンの雨樋装飾がついていたことがわかりました。しかし旧門司市役所のライオンは、サイズが大きく、顔つきも異なります。

九州大学の近代建築には、このライオン以外にも旧応用化学教室のふくろう



旧応用化学教室の通気口。フクロウでしょうか?

(のような)模様の通気口など、変わった装飾が多く見られます。何か設計者の意図があるようにも思われますが、これらが意味を持つ記号であるのか、美的・構造的な装飾なのかを明らかにすることは難しい作業です。博物館では、こうした装飾について、日常的に写真やデータで記録を残しています。そして、大学建物の取り壊し予定があれば飛んで行き、特徴的な意匠の部材を資料として確保しています。博物館ではそうした意匠についてできる限り調査をし、設計の背景を紐解く手がかりを残そうとしています。建物の復元・修復などをする際にも重要な資料になると考えています。

*この鯨鮫とは魚ではなく集水器の意

COLUMN

館員活躍録

糸島にすむケモノたち

担当：丸山 宗利 開示研究系・助教

九州大学には数多の自然史標本があるように思われていますが、少し弱いところもあります。それは展示に使用可能な哺乳類の本剥製です。農学部には貴重な哺乳類の仮剥製

(毛皮のみの保存状態)がありますが、希少性が高すぎるのと、生きた哺乳類本来の姿をしていないため、展示には適していません。そこで2012年度と2013年度の2年間、九州大学

本部からの援助を受け、将来の展示事業に備えて、糸島市に生息する哺乳類の本剥製の収集を行いました。幸い、さまざまな方々のご協力を得て、シカを除くすべての大型哺乳類を集めることができました。そして今回、糸島市の志摩歴史資料館において、同時に作成した骨格標本を含め、それら哺乳類の剥製を一挙に展示する機会を得ました。志摩歴史資料

館の皆さんにも工夫していただき、見事な展示となりました。



志摩歴史資料館の展示室の様子

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

科学研究費補助金による研究:その11

宮都・官衙の空間構造とその変遷からみた古代国家統治機構形成過程の研究

岩永 省三 一次資料研究系・教授 専門:考古学



九大・原町農場で発見された糟屋評衙・郡衙遺構



福岡市・鴻臚館北館遺跡の整備状況



平城宮・第一次大極殿復元建物と幢旗遺構

本研究は、古代国家研究の一環として、6世紀代に構築され在地首長の支配に依拠した氏族制的・族制的原理による支配制度が、7世紀後半に、中央集権的支配機構を動かす官僚制・官司制的支配制度へと転換した様相を考古学的方法で明らかにする。原理転換前後の7～8世紀の中央・地方の宮跡・官衙遺跡の建物配置・空間構造とその時間的変動、中央から地方への影響関係や機能的類似度を検討し、古代国家の中央および地方における官僚機構・官司制、統治・行政機構の形成・整備過程を解明する。また、評・郡の設定の方式、および在地首長層の末端官僚としての国家機構への取り込みの様相を検討し、地方行政単位の族制的編成から領域的編成への転化の様相を解明する。

筆者は従来の研究過程で、国造制・部民制・ミヤケ制など古墳時代以来の氏族制的・族制的人民編成・支配制度が、7世紀後半以降にいかにして領域的編成、官僚制・官司制的支配機構に転換したのが国家形成史上重要な課題であると認識した。そのため、考古学的方法で、原理転換前後の中央・地方の支配拠点に関わる遺跡・遺構・遺物を分析し、以下で述べる諸課題を明らかにする必要性を認識した。

A. 中央政府における天皇の政治への関与形態、天皇と臣下との身分的關係の表現型式、政治や儀式の執行形態などとその変動を復元する。

B. 前期難波宮から平安宮に至る諸宮の宮内における官司の比定、配置、各官司

の構造とその変遷を可能な限り復元し、中央政府における官僚機構・官司制の形成・整備過程を復元する。

C. 7～8世紀の各地の国衙・郡衙・末端官衙遺跡を総合的に検討し、政庁域や正倉域などの施設ごとに遺構配置の類型化と時間的変化傾向の分析を行う。

D. 地方官衙の政庁・官衙の建物配置・構造と、宮都の中枢部、宮都の諸曹司との系譜関係や機能的類似度を明らかにする。

E. 評・郡の設定の方式、および評・郡の設定に際しての在地首長層の郡司への任用、末端官僚としての国家機構への取り込みがいかなる方式でなされたのかを検討し、文献史学界で蓄積されている研究成果の検証を行なう。

(基盤研究C(一般):人文学・史学・考古学 平成27年～31年度)

COLUMN

館内探訪

まるでタイムスリップ!

担当: 高瀬 一樹・飯尾 寿子 技術補佐員

私たちは現在、箱崎キャンパス移転に関連して、収蔵していた資料の調査を行っています。本学の檜垣名誉教授の遺蔵資料であり、古文書を中心に、書画軸、和・洋装本、美術品・

民具など、九州を中心とする歴史的総合資料が檜垣資料です。

調査は、当館の所蔵となった500点以上の美術品・民具の寸法を一つ一つ測り、写真撮影をした後、細かな情報を調査票に記入していきます。時代は様々で、弥生時代から現代まで多岐にわたります。貴重な資料なので、破損

しないよう慎重に取り扱いながら作業を進めていきます。後々これらの資料はデータベース化される予定ですが、その前に専門家の方に一度鑑定して頂くため、現在は物品のカタログ作成を行っている最中です。

普段はガラス越しでしか見られない資料を間近に見られ、当時の生活をうかがい知る事ができました。まるでタイムスリップ!



作業風景

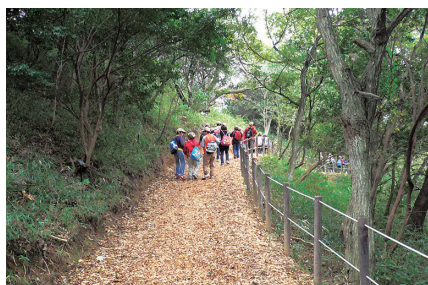


Series : Research at the Kyusyu University Museum

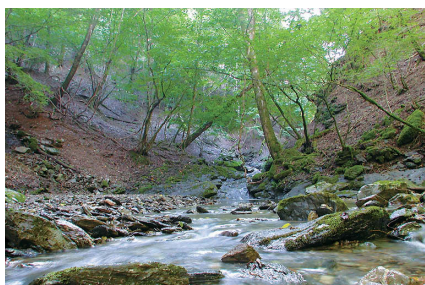
特別寄稿

広大で多様な九大の森林をフィールドミュージアムに

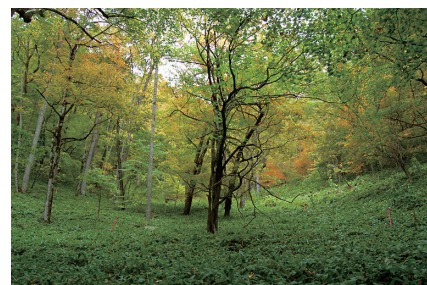
大槻 恭一 九州大学農学研究院(農学部附属演習林)・教授 専門:森林生態水文学



地元と共同で公開している篠栗九大の森(福岡演習林)



シカ害等で下層植生が消失した山地溪流(宮崎演習林)



環境省モニタリングサイト1000プロット(北海道演習林)

九州大学は日本で3番目に広い大学です。その敷地面積7,600haの約94%は、自然・社会環境が著しく異なる福岡、宮崎、北海道に配置されている農学部附属演習林にあり、暖温帯～中間温帯～冷温帯に至る日本列島の主要な植生帯をカバーしています。

福岡演習林(暖温帯の都市近郊林): 福岡県篠栗町・久山町に位置し、面積481ha、標高30～553mで、第三紀層の丘陵地と古生層の急峻な山岳から形成されています。自然植生が約31%を占め、カシ類、シイ類、タブノキ、ヤマモモ等の暖温帯性常緑広葉樹が多く、尾根部にはイヌシデ、コナラ等の落葉広葉樹が分布しています。約63%を占める人工林には、主にスギ、ヒノキを植栽しています。

宮崎演習林(中間温帯～冷温帯の奥地山岳林): 宮崎県椎葉村に位置し、面積2,916ha、標高650～1,607mで、東側には中生代白亜紀～新生代古第三紀、四万十累層群の変成岩類、西側には花崗岩類が分布しています。自然植生が約80%を占め、ブナ、ミズナラ、ヒメシャラ等の落葉広葉樹とモミ、ツガ、アカマツ等の常緑針葉樹が混交しています。約18%を占める人工林には、主にスギ、ヒノキを植栽しています。

北海道演習林(冷温帯の北方丘陵林): 北海道足寄町に位置し、面積3,714ha、標高100～450mで、新第三紀の凝灰岩層と砂岩、頁岩からなっています。自然植生が約64%を占め、ミズナラ、エゾイタヤ等の落葉広葉樹林で占められています。約36%を占める人工林には、カラマツを

主体にトドマツ等を植栽しています。

今年、創立103年を迎える演習林は、この広範な気候下の森林を教育研究フィールドとして利用し、日本の三大人工林樹種(スギ、ヒノキ、カラマツ)および広葉樹(ミズナラ)の長期人工林施業研究や、二次林・天然林を対象とした長期生態学研究(環境省モニタリングサイト1000、日本長期生態学研究JaLTER)等を実施してきました。現在、総合博物館と連携し、演習林の多様な自然・社会環境、多様な森林、そこに生息する動植物・微生物等を貴重な学術資料・標本として観測、保存、利用、展示するフィールドミュージアムとしての展開も進めています。豊かな九大の森林をフィールドミュージアムとしても大いにご利用下さい。

COLUMN

これも博物館のお仕事

子供たちに研究の魅力を届ける

担当: 福原 美恵子 研究支援推進員

「夏の教室―弥生の人々の暮らしと昆虫とのつながり」が、独立行政法人日本学術振興会委託事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」として、7月25、26日

に、小中学生と保護者65人の参加を得て開催されました。先史時代の遺物、糸作りの道具、生きたカイコを展示し、大学博物館研究室の雰囲気を出した会場で、本館岩永省三教授には

弥生人の生活や考古学と昆虫学との接点について、農学研究院伴野豊准教授と農学研究院紙谷聡志准教授には、ヒトとの関係にも触れつつ、それぞれカイコとセミについて、講義いただきました。続く実習では、カイコの繭からの糸取りやセミの採集と標本作製を行いました。実物を見て、調べ、考えるという研究の魅力と、歴史や理科という教科の粹

を超えた探求の楽しさを、子供たちには伝えられたかと思います。



一人一人に「未来博士号」が授与されました

Personnel Changes

人事往来

着任・退職

平成27年4月1日付けで、米元史織が開示研究系・助教として着任しました。(本誌p.4参照)

事務補佐員の西本法子さんは、平成27年6月30日限りで退職しました。

平成27年7月1日付けで、松尾和雅子さんが事務補佐員として着任しました。

事務補佐員の梅野美希さんは、平成27年9月30日限りで退職しました。

平成27年10月1日付けで、佐藤愛さんが事務補佐員として着任しました。

兼任教員

農学研究院・准教授
古賀 信也 平成27年8月1日～
農学研究院・准教授
内海 泰弘 平成27年8月1日～

専門研究員

坂倉 真衣 平成27年4月1日～
重野 裕美 平成27年4月1日～
佐々木 圭子 平成27年4月1日～
金尾 太輔 平成27年4月1日～

サテライト巡回展示

● 福岡空港サテライト

平成26年 1月17日(金)～福岡県の蝶 1-3
平成26年 4月 4日(金)～福岡県の蝶 5,6
平成26年10月 9日(木)～福岡県の蝶 7,8

● 糸島地区サテライト(糸島市志摩歴史資料館、前原市伊都文化会館、糸島市役所二丈庁舎、糸島市健康福祉センター「あごら」*)

平成26年 3月 7日(金)～福岡県の蝶 4(前原市伊都文化会館)
平成26年 3月 7日(金)～福岡県の蝶 5(糸島市役所二丈庁舎)
平成26年 3月 7日(金)～福岡県の蝶 6(糸島市志摩歴史資料館)
平成27年 2月26日(木)～大型美麗甲虫
(糸島市健康福祉センター「あごら」)

*糸島市役所二丈庁舎での展示は改装のため、平成26年2月26日をもって終了。以降、糸島市健康福祉センター「あごら」での展示開始。

テレビ出演

● NHK 総合
視点・論点「アリの社会に驚きあり」
(丸山宗利助教)
平成27年4月10日(金)

Activities of Exhibitions & Conference

展示・講演会関係の活動状況

特別展示

- 「中山平次郎先生 関係考古学資料 特別展示」
期間:平成27年4月20日(月)～6月26日(金)
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室
- 「奴国の南」
期間:平成27年5月11日(月)～8月31日(月)
場所:伊都キャンパス椎木講堂ギャラリー展示コーナー
主催:総合研究博物館、アジア埋蔵文化財研究センター、埋蔵文化財調査室
- 「きらめく甲虫」
期間:平成27年7月6日(月)～9月25日(金)
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室
- 志摩歴史資料館夏期企画展／九州大学社会連携事業「KEMONO 糸島にすむケモノたち」
期間:平成27年7月22日(水)～9月13日(日)
場所:糸島市立志摩歴史資料館
主催:総合研究博物館、九大糸島会、糸島市教育委員会、志摩歴史資料館
- 「知られざる絶滅危惧の昆虫 小松貴写真展2」
期間:平成27年4月20日(月)～6月26日(金)
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室

特別企画

- バックヤードツアー
期間:平成27年5月3日(日)
場所:第一分館、五十周年記念講堂、旧工学部本館
- 九州大学総合研究博物館第一分館閉館式
期間:平成27年4月20日(月)～6月26日(金)
場所:総合研究博物館第一分館
- 地質の日特別企画「プロフェッサー前田の化石講座」
期間:平成27年5月9日(土)
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室
- ひらめき☆ときめきサイエンス
「夏の教室弥生の人々の暮らしと昆虫とのつながり」
期間:平成27年7月25日(土)、7月26日(日)
場所:箱崎キャンパス旧工学部本館3階 第一会議室

展示協力

- 奇跡の容姿 ツノゼミ大集合!
同時開催 ありのままのアリの生活
期間:平成27年7月22日(水)～8月6日(木)
場所:リバーウォーク北九州4階
NHK北九州放送局 リバーサイドスタジオ
- 特別展(巡回展)「生命大躍進 脊椎動物のたどった道」
※化石標本2点提供(前田晴良教授)
平成27年 7月 7日(火)
～10月 4日(日) 国立科学博物館
平成27年10月17日(土)
～12月13日(日) 名古屋科学館
平成28年 1月16日(土)
～ 4月 3日(日) 愛媛県美術館
平成28年 4月16日(土)
～ 6月19日(日) 大阪市立自然史博物館
平成28年 7月15日(金)
～ 9月 4日(日) 岡山シティミュージアム

学内連携企画

- 図書館展示一標本にみる九州大学の研究—
第4弾「九州大学の植物標本」
期間:平成27年4月13日(月)～7月9日(木)
- 第5弾「九州大学の鉱石標本」
期間:平成27年7月9日(木)～9月末(予定)
場所:箱崎キャンパス中央図書館2階エントランス常設展示コーナー

博物館施設一般公開

- 開学記念行事に伴う施設公開
期間:平成27年5月9日(土)
場所:箱崎キャンパス
・総合研究博物館常設展示室
・旧工学部本館4階第二会議室「青山熊治画伯筆壁画」
・列品室1
・総合研究博物館第一分館
- オープンキャンパスに伴う施設公開
期間:平成27年8月1日(土)～8月3日(月)
場所:箱崎キャンパス総合研究博物館常設展示室

運営委員会

平成27年 3月20日(書面回議)
平成27年 5月27日
平成27年 6月25日(書面回議)
平成27年 9月 8日(書面回議)
平成27年 9月18日(書面回議)
平成27年10月 7日(書面回議)

団体見学

平成27年 3月 6日 UR都市機構
平成27年 4月17日 福岡市
平成27年 5月14日 UR都市機構
平成27年 5月14日 工学部電気工学科卒業生
平成27年 5月25日 西日本鉄道(株)
平成27年 6月24日 箱崎小学校
平成27年 7月10日 山口県立下関南高校
平成27年 7月26日 九州産業考古学会
平成27年 7月27日 社会教育主事講習会
平成27年 8月 1日
～ 8月 3日 九州大学オープンキャンパス

訂正

23号[印刷版]「夏の昆虫展示」の期間・場所の記載に誤りがありました。当館HP掲載のPDF版に正しい情報を掲載しております。